

泌尿器科研修プログラム

I プログラムの一般目標 (GIO)

短期研修の場合は、泌尿器疾患に対する基礎知識、診察・検査・治療などを見聞し、あるいは実習して、一般臨床医として具備すべき基本的な事項を修得する。

II 行動目標 (SBOs)

1. 外来診療の目標

- ①泌尿器科の専門的な外来診察法を学び、その特殊性を理解する。
- ②外来で行われる泌尿器科的検査の概要を理解し、一部実習する。
- ③泌尿器科独特の機器類の名称・使用法・管理法等を学ぶ。
- ④外来処方の実際を学ぶ。
- ⑤結石の疼痛、腎盂腎炎・前立腺炎による高熱、等に対する救急的処置の実際を学ぶ。

外来診療は、各指導医が担当しているので、担当指導医のもとで、日常の問診や診察・検査・処置・処方等に関する考え方を学び、その実際について基礎的な技術を修得する。

また、指導医の判断により、問診や安全な検査や処置等も行うことができる。

※外来で行う主な検査・処置

超音波検査
膀胱鏡検査
前立腺直腸診
尿流量測定
前立腺液・尿道分泌物採取
膀胱内圧測定
静脈性腎盂造影、尿道造影
尿路カテーテルの挿入・抜去
膀胱洗浄・腎盂洗浄
逆行性尿路造影、分腎尿採取
前立腺生検
陰嚢水腫穿刺術、透光性検査
経尿道的内視鏡的処置
尿道ブジー
小児包茎・停留精巣の検査・処置

2. 病棟診療の目標

- ①各種疾患における入院治療の一連の流れを理解する。
- ②包交・膀胱洗浄等の基礎的処置を実践する。
- ③術後患者の心理状態、術後処置、カテーテル類の管理、等の泌尿器科的処置法を学ぶ。
- ④患者の社会的背景、心理的要素などを全人的に把握し対応する能力を身につける。
- ⑤患者及び家族に対して十分な説明を行い、病態の理解へ導く方法を学習する。
- ⑥患者及び家族との十分な会話のもとに、よりよい人間関係を築く。

- ⑦看護師をはじめとする他の医療メンバーとの協調をはかり、チーム医療を遂行する。
- ⑧院内感染や医療事故の重要性を認識し、この予防方法を実践する。

病棟では、各主治医が行う問診・診察・検査・診断等の一連の流れ、および治療計画を学び、またカルテの書き方を実習する。指導医のもとで、1～2名の患者を担当して、疾病の経過、患者の心理状況の推移、病棟での看護師等とのチーム医療を学ぶ。また、これらを通じて、患者さんに接する時の基本的態度を修得する。

3. 手術および内視鏡による治療等の目標

- ①術前に必要な検査、術前の手術説明、手術方法、術後管理・術後の注射薬および全身管理等に対する考え方を学ぶ。
- ②手術の助手を務めて手術に対する心構えや慎重・冷静な基本態度を学ぶ。
- ③手術室内および手術に対する清潔不潔の観念を深める。
- ④泌尿器手術で用いる手術器具、内視鏡の名称や取り扱い方を学ぶ。
- ⑤尿路手術後のカテーテルおよび尿路管理の特殊性と重要性を理解する。
- ⑥体外衝撃波結石破碎術（ESWL）では、結石の部位や性状と破碎効果等を理解し、指導医のもとで助手を務める。
- ⑦内視鏡による経尿道的手術、ロボットを使用した腹腔鏡手術、それ以外の腹腔鏡を用いた低侵襲手術、ロボットシュミレーターによる研修等により泌尿器科の特徴的な手術法を理解し、可能であれば指導医のもとで助手を務める。

Ⅲ 方略 (LS)

- 1. 指導医または上級医とともに入院患者の担当医となり、受け持ち患者の診療に従事する。
- 2. 病棟回診に帯同し、迅速に受け持ち患者以外の診療の概要を理解する能力を向上させる。
- 3. 指導医・上級医のもとで、外来患者の診察、検査指示を行う。
- 4. 指導医及び上級医とともに手術・検査に参加する。
- 5. 指導医及び上級医とともに介護保険制度介入の必要性を検討して、必要であれば退院調整会議などに積極的に参加する。

Ⅳ 経験すべき疾患

- 1. 前立腺癌
- 2. 尿路上皮癌
- 3. 腎癌
- 4. 尿路感染症
- 5. 尿路結石
- 6. 精巣癌
- 7. 排尿障害
- 8. 小児泌尿器疾患（包茎、停留精巣等）

Ⅴ 評価 (EV)

- 1. PG-EPOCによる評価を行う。

泌尿器科研修スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	病棟回診 外来診療	手術	手術	手術	病棟回診 外来診療
午後	ESWL 外来検査	手術	手術	手術	ESWL 外来検査
夕	勉強会 個別回診	個別回診	個別回診	個別回診	個別回診